



シーリングマイクロフォン

RM-CG

施工説明書

JA

VEZ3970

日本語

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を防止するためのものです。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

記号表示について

本製品や施工説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
--	---------------------------------

火に注意

本製品の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

禁止

	電源を入れたり切ったりする前に、必ず本製品や接続している機器の音量(ボリューム)を最小にする。
	聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

	オーディオシステムの電源を入れるときは、パワーアンプをいつも最後に入れる。電源を切るときは、パワーアンプを最初に切る。
	聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

設置と接続

取り付け工事は必ず専門の施工会社に依頼する。また、取り付ける場合は、以下の点に注意する。

- この機器の重量に十分に耐えられる取り付け器具と場所を選択
- 継続して振動があるような場所は避ける
- 必ず指定された取り付け工具を使用する
- 定期的に保守点検を行う

警告

警告 :

- 本体を取り付けたり安全ワイヤーを取り付ける場所に十分な強度があることを確認してから、取り付けを行ってください。
- 取り付け作業は、作業者の落下、および、本体や周辺の構造物等の落下、破損がないよう十分に注意して行ってください。

ご注意 :

- 通電は、本体が確実に取り付けられたことを確認したあとに IEEE802.3af 対応した PoE インジェクターまたは PoE ネットワークスイッチに LAN ケーブルを接続してください。
- 使用できるケーブルは最長 100 m です。
- 電磁干渉防止のためには、STP ケーブル（シールド付きツイストペアケーブル）をお使いください。

■ 天吊り用VESAマウント金具を使って取り付ける場合

VESA100対応のマウント金具と取り付け用ネジをご用意ください。

VESAマウント金具の取り付け方法についてはそれぞれのVESAマウント金具の説明書を参照してください。以下は例です。

端子カバーを使用しない場合は、手順 1 と裏面の手順 2-1、

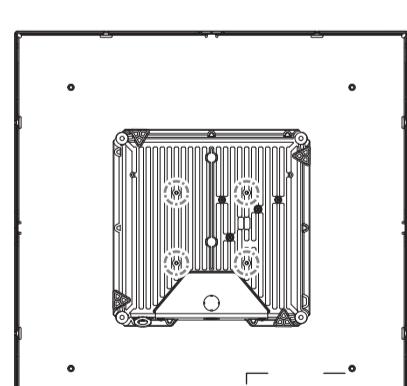
9、11 を省略できます。ただし、防塵性能規格とプレナム定格は満たしません。

1. 端子カバーに配管を通す穴をあける。

配管を通す方向に端子カバーにケーブルホールを作ります。端子カバーには水平方向と垂直方向にケーブルホールをあけることができます。

ニッパーを使うことを推奨します。ドライバーなどで叩いてあけたり、マイナスドライバーであけようとすると、端子カバーが変形することがあります。

2. VESA マウント金具を本体の下記ネジ穴に合わせて取り付け。



3. VESA マウント金具を天井に取り付ける。

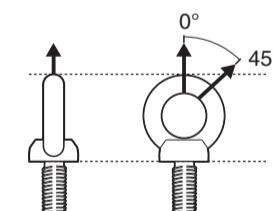
これ以降の作業は裏面の手順 2-7～2-11 および手順 4 を参照してください。

■ ワイヤーを使って吊り下げる場合

吊り下げるための十分な耐荷重のワイヤーやアイボルト (M6×13 mm以下) などをご用意ください。

メモ :
アイボルトは各国の規格や安全基準に合ったものをお使いください。

ご注意 :
吊り下げる角度によって、アイボルトの強度が異なります。アイボルトは鉛直から 0°～45° の範囲で使用してください。



端子カバーを使用しない場合は、手順 1 と裏面の手順 2-1、

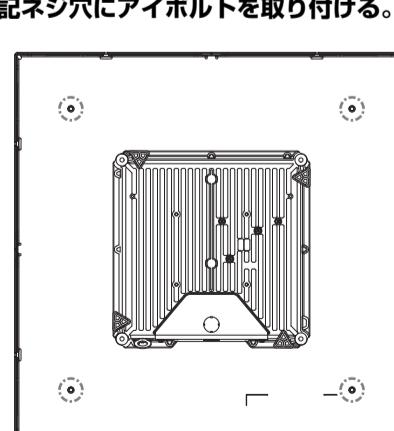
9、11 を省略できます。ただし、防塵性能規格とプレナム定格は満たしません。

1. 端子カバーに配管を通す穴をあける。

配管を通す方向に端子カバーにケーブルホールを作ります。端子カバーには水平方向と垂直方向にケーブルホールをあけることができます。

ニッパーを使うことを推奨します。ドライバーなどで叩いてあけたり、マイナスドライバーであけようとすると、端子カバーが変形することがあります。

2. 本体の下記ネジ穴にアイボルトを取り付ける。



3. 設置後本体が水平になるように注意し、天井から垂らしたワイヤーに取り付ける。

これ以降の作業は裏面の手順 2-7～2-11 および手順 4 を参照してください。

使用上のご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/ お手入れに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続する。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定する。電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆回線 LAN を含む）には直接接続しない。
- テレビやラジオなど、他の電気製品に雑音が生じる原因になります。
- 極端に温度の高いところや低いところ、ほこりや振動の多いところで使用しない。
- 本製品が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 温度変化が激しい場所に設置しない。
- 製品内部や表面に結露が発生し、故障したりする原因になります。
- 結露が発生しているおそれがあるときは、しばらく放置してから電源を入れる。
- 結露した状態で電源が入ると、故障の原因になります。
- 本製品上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。変色/ 変質の原因になります。
- お手入れのときは、ベンジン、シンナー、洗剤、化学ぞうきんなどで製品の表面を拭かない。
- グリルをはめたままグリルを下にして地面などに置かない。グリルが変形する原因となります。

お知らせ

■ 製品の機能/データに関するお知らせ

- 本製品は、クラス A 機器です。本製品を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。（VCCI-A）
- 本製品で使用しているオープンソースソフトウェアのライセンス条文については、下記のウェブサイトをご覧ください。
<https://download.yamaha.com/>
- 本製品は Dante Ultimo を使用しています。使用しているオープンソースライセンスについては、Audinate社のウェブサイト（英語）をご覧ください。
<https://www.audinate.com/software-licensing>

■ 施工説明書の記載内容に関するお知らせ

- この施工説明書に掲載されているイラストは、すべて説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 弊社では製品のソフトウェアを継続的に改善しています。最新のソフトウェアは、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。
- 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

■ 廃棄に関するお知らせ

- 本製品は、リサイクル可能な部品を含んでいます。廃棄される際には、廃棄する地方自治体にお問い合わせください

仕様

■ 一般仕様

品名	シーリングマイクロフォン
色	黒、白
寸法 (W×D×H)	W560 mm × D560 mm × H90 mm (突き出し含む) / マイクロフォンパネル部: H22 mm
質量	5.6 kg (グリルを含む)
電源	PoE (IEEE802.3af)、DC 48 V
最大消費電力	7.2 W
動作環境	温度 0 °C ~ 40 °C 湿度 30% ~ 90% (結露のないこと)
保管環境	温度 -20 °C ~ 60 °C 湿度 20% ~ 90% (結露のないこと)
インジケーター	・フロントインジケーター (Mute/Unmute & Status) ・ネットワークポートインジケーター
取り付け方法	・天井埋め込み（※システム天井のタイル置き換えはできません） ・ワイヤーマウント ・VESA マウント
RM-CRとの最大接続数	2台
防塵性能	IP5X相当（端子カバー使用時）
プレナム定格	UL2043（端子カバー使用時）

■ ネットワーク仕様

[Dante/PoE] 端子	Dante、リモートコントロール、WebUI、PoE 対応 CAT5e以上のSTPケーブルを使用すること
----------------	---

■ オーディオ仕様

周波数特性	160 Hz ~ 16 kHz (-10 dB)
サンプリングレート	48 kHz
ビット数	24 bit
レイテンシー	58 [ms] (信号処理を含む)
オーディオ入出力	1in × 2out Dante In1=AEC 参照信号/ Out1=ビームミックス出力、 Out2=ビームミックス出力 (簡易処理)
最大入力音圧レベル	117.8 dB SPL
自己ノイズ	-0.8 dB SPL
SNR (Ref. 94 dB SPL at 1 kHz)	94.8 dB
感度	-23.8 dBFS/Pa
ダイナミックレンジ	118.6 dB
信号処理	・マルチピームトラッキング ・適応型エコーキャンセラー、ノイズリダクション、残響抑止、オートミキサー、オートゲインコントロール、バラメトリック・イコライザ、出力ゲイン調整

■ リファレンスマニュアルのご案内

- 本製品と RM-CR の接続方法は RM-CR リファレンスマニュアルをお読みください。
- 本製品の機能や仕様の詳細は RM-CG リファレンスマニュアルをお読みください。
- どちらも下記のウェブサイトにて公開されています。
<https://download.yamaha.com/>

同梱品

(形状については裏面を参照してください)

- 施工説明書（本紙）×1
- シーリングマイクロフォン ×1
- グリル ×1
- グリル用固定ネジ (M3×8 mm) ×5(*)
- ネジカバー ×4
- 結束バンド ×1
- 端子カバー ×1
- 安全ワイヤー ×1
- コの字金具 ×1

- コの字金具固定用ネジ (M4×20 mm) ×5(*)
- C リング ×1
- C リング固定用ネジ ×2
- 穴あけ用型紙 ×1
- 仮留金具 ×2
- 保証書 ×1

(*) 1本は予備です。

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の背面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入の上、大切に保管していただくことをおすすめします。

機種名

製造番号

■ 天井に埋め込む場合



- 警告：**
- 本体を取り付けたり安全ワイヤーを取り付ける場所に十分な強度があることを確認してから、取り付けを行ってください。
 - 同梱のコの字金具を使って構造材で荷重を受ける等、天井パネルに耐荷重以上の荷重がかかるないようにしてください。パネルに荷重がかかる場合、必要に応じてパネルを補強し、部材が破損しないようにするとともに、本体や部材等が落下しないようにしてください。

ご注意：

- 通電は、本体が確実に取り付けられたことを確認したあとに IEEE802.3af 対応した PoE インジェクターまたは PoE ネットワークスイッチに LAN ケーブルを接続してください。
- 使用できるケーブルは最長 100 m です。
- 電磁干渉防止のために、STP ケーブル（シールド付きツイストペアケーブル）をお使いください。
- グリル、取り付け金具類を含む質量は約 6.8 kg となります。

1 天井に穴を開ける

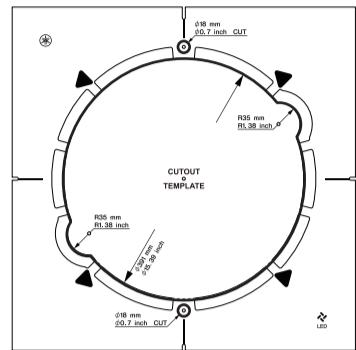
1. 天井材に穴あけ用型紙をあて、切り取るところに印を付ける。

□コバッチの位置を目安に場所と位置を決めてください。

太線の部分が切り取るところになります。

メモ：

ホールカッターを使う場合は、穴あけ用型紙の穴をあける中心点（5箇所）に印を付けてください。また、R35 mm の穴からあけるようにしてください。



2. 印に沿って天井材に穴を開ける。

注意：
穴を開ける際に、破片や粉などが目に入らないよう
にご注意ください。

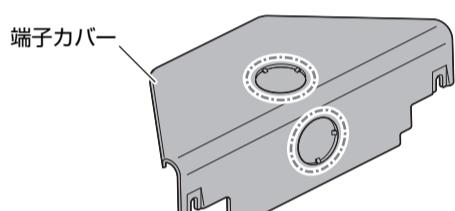
2 金具類を取り付ける

端子カバーを使用しない場合は、手順 1、9、11 を省略できます。ただし、防塵性能規格とプレナム定格は満たしません。

1. 端子カバーに配管を通す穴を開ける。

配管を通す方向に端子カバーにケーブルホールを作ります。端子カバーには水平方向と垂直方向にケーブルホールを開けることができます。

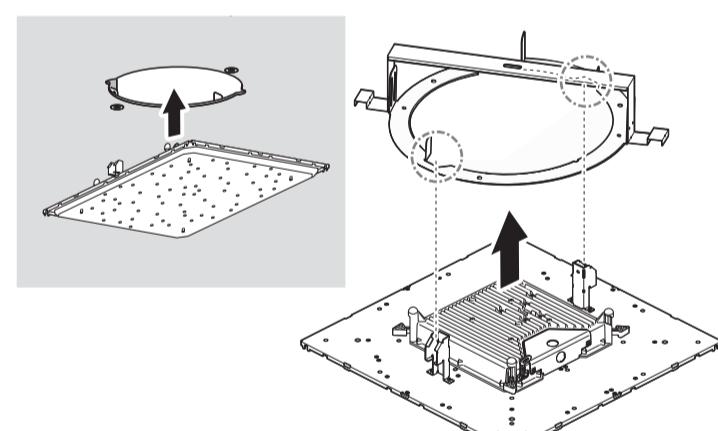
ニッパーを使うことを推奨します。ドライバーなどで叩いてあけたり、マイナスドライバーであけようすると、端子カバーが変形することがあります。



3 天井に固定する

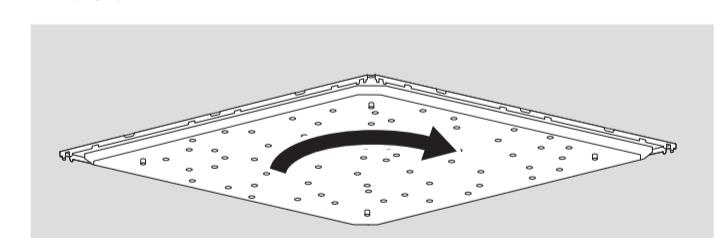
1. 仮留金具を天井の穴にある切り欠き部分に合わせ、ゆっくりと本体を天井に押し上げる。

天井と本体の間にケーブル、安全ワイヤーを挟まないように注意してください。



2. 本体を時計方向に回して、本体の位置を合わせる。

仮留金具が C リングの上にのることで、手を離して作業できます。

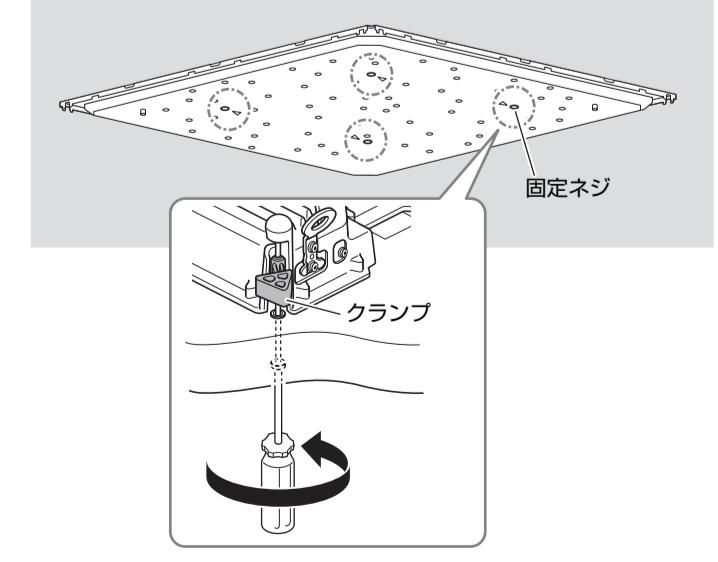


3. 本体を上に持ち上げながら、4箇所の固定ネジをプラスドライバーで時計回りに回して締める。

最初の回転でクランプが開きます。ネジを回すごとにクランプが下がり、天井や C リングを押さえ込みます。

クランプが開きにくい場合、いったん反時計回りに半周回すと開きやすくなります。

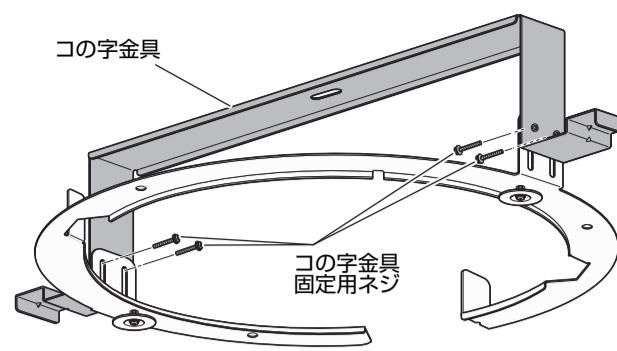
固定ネジを回すと本体の位置がずれことがあります。ずれた場合は本締めする前に正しい位置に調整してください。



警告：

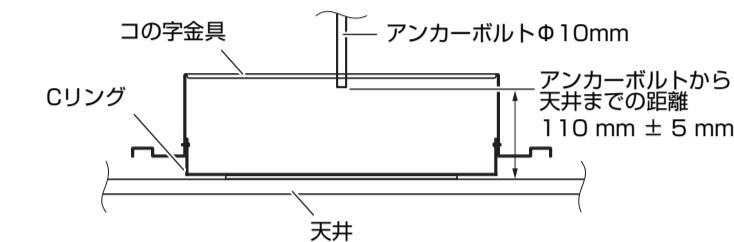
- 締めすぎるとネジが切れたり、クランプが壊れたりするため、固定ネジを締めすぎないようにしてください。
- 固定ネジ以外を回さないでください。本体の落下や故障の原因となります。

5. コの字金具を天井裏に入れ、コの字金具固定用ネジで C リングと固定する。



6. コの字金具の穴にアンカーボルトを固定する。

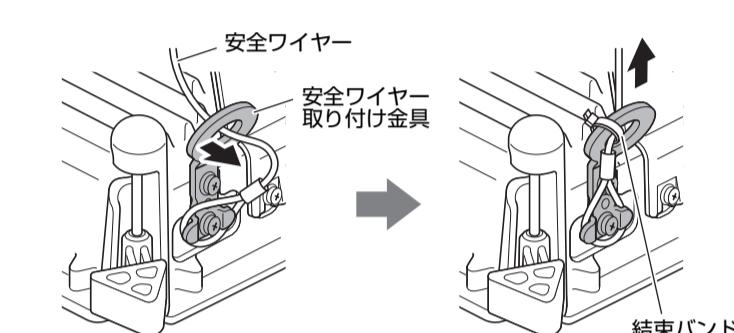
- メモ：**
- アンカーボルトは $\Phi 10$ mm のものを使用してください。
 - アンカーボルトは、天井までの距離が 110 mm ± 5 mm になる長さにしてください。



7. 安全ワイヤーを天井裏の構造体に取り付ける。

8. 安全ワイヤー取り付け金具に安全ワイヤーを取り付け、結束バンドで安全ワイヤー取り付け金具を固定する。

このあとの手順 3 までの作業は安全ワイヤーで本体を吊るした状態での作業となります。

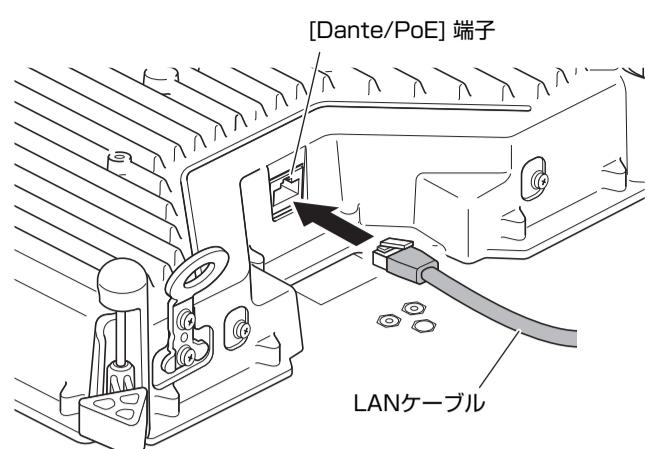


警告：

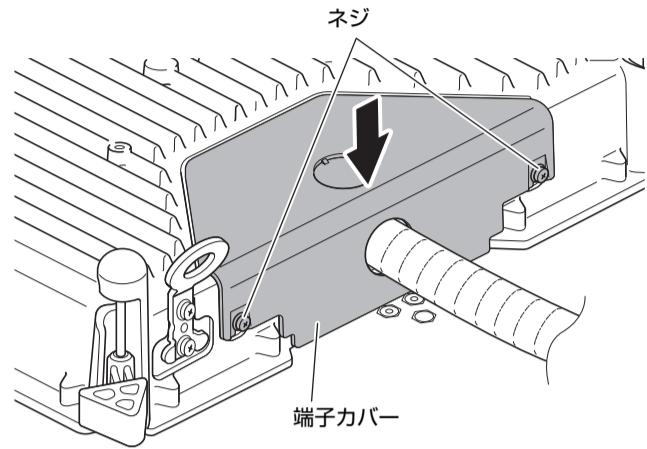
- 必ず落下防止対策を施してください。
付属の安全ワイヤーで長さが足りない場合は、本体の重量、設置状況を考慮して適切な長さと強度のワイヤーをご用意ください。長さに余裕がありすぎる場合、落下時に運動エネルギーがワイヤーに多くかかり、断線して落下する可能性があります。

9. 端子カバーに LAN ケーブルを通す。

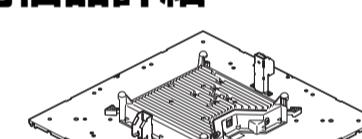
10. [Dante/PoE] 端子に LAN ケーブルを差し込む。



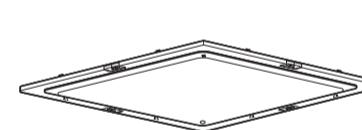
11. 本体についている端子カバー用のネジを締めたあと、そのネジを使って端子カバーを本体に取り付ける。



同梱品詳細



シーリングマイクロフォン×1



グリル×1



結束バンド×1



Cリング×1



端子カバー×1



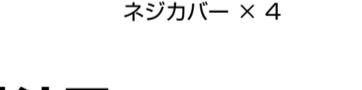
Cリング固定用ネジ×2



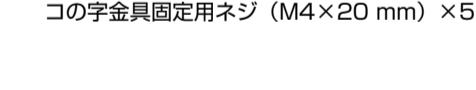
グリル用固定ネジ (M3×8 mm) ×5



ネジカバー×4



コの字金具×1

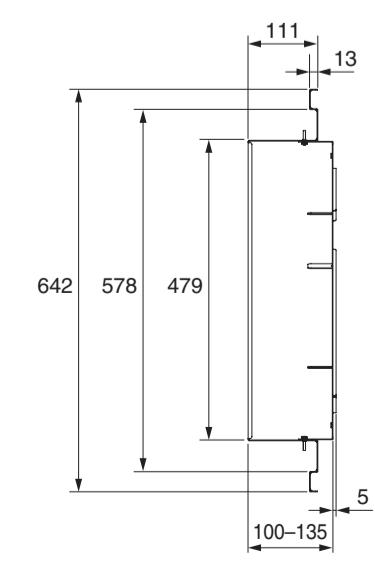
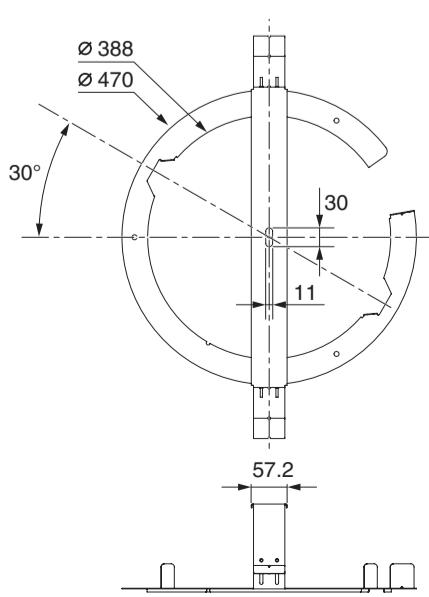
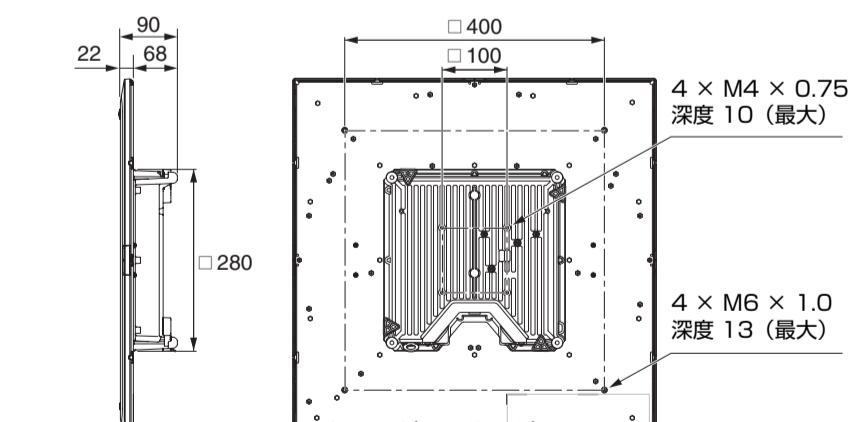
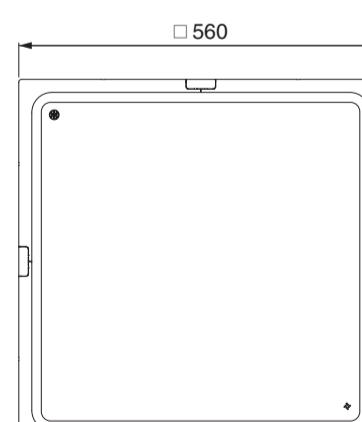


コの字金具固定用ネジ (M4×20 mm) ×5



仮留金具×2

寸法図



単位：mm